

# 我が職場の安全活動

付知営林署 加子母担当区基幹作業職員 ○山口 太  
〃 安江 福夫

## 1. はじめに

加子母担当区の基幹作業職員5名は、東股担当区部内の作業も併せて、東濃ヒノキをメッカとする造林事業に従事しています。

私たちの働く山は、阿寺断層の影響を受け急峻地で、かつ、笹の密生地が多いため各作業は大変で、特に安全の確保に苦勞しています。

平成元年の5月、「つる切」作業中刃物に起因する災害が発生しました。幸い軽傷でしたが、この災害を契機として私たちの職場では、今までの安全に対する取り組み、あるいは安全に対する行動、考え方が正しかったかを反省し、その結果攻めの安全活動を積極的に進めることとし、そのための話し合いと行動を積み重ねてきました。

## 2. 安全の取組み内容

私たちは、まず

- ① 安全は、人に押しつけられて漫然と実行するものでない。
- ② 自らが進んで取り組み、実践する。
- ③ 決めたこと、決められていることは必ず守る。

の三点が我が班の安全活動の柱として、人の意見は聞く、自分の考えは遠慮なく言う、仲間との「和」を大切にすること。こうした職場作りにポイントをおいてきました。

### ○ 危険予知運動の実践

作業環境、作業条件が一定しない私たちの職場において、怪我を出さない安全な作業を進めるためには、まず作業地に潜む危険を予知すること。その危険にどう対応するかが一番大切なことでもあります。それから作業の内容、作業環境、その日の天候、また一人ひとりの作業動作の中にも数多くの危険要素が存在しております。

私たちの班では、安全懇談会やTBMの内容を充実することで、山の危険、一人ひとりの行動、作業動作による危険の因子を取り除くことに努めました。

## 1 安全懇談会の充実

従来の安全懇談会は、災害事例にもとづく対策など外部的要素によるものが多く、大まかに流れがちでありましたが、今年からは事業計画の節々や、新たな作業地が変わる毎に「山見」を行い、危険と思われる作業箇所や歩道の状態、すなわち危険箇所や予想される危険要因、危険因子を事前に明らかにし、それに対処するかを各自の経験から意見を出し合い、安全作業の進め方を各人が確認し実行するとともに、毎日その内容を目で再確認するためそれらを図面に表示してミニバスや休憩小屋に掲示しました。こうした全員参加の「危険予知運動」を重点にした安全懇談会を実施した結果、皆が積極的に意見を出すようになり活気に富んだ安全懇談会がもてるようになりました。

## 2 TBMの充実

日々行うTBMは、当日の作業内容及びその進め方、作業配置の指示を受けた後、安全当番のリードのもとに話し合い、「山見」の結果及び、「安全懇談会」の危険予知結果に基づいて当日の作業地の「危険箇所」の対応や「不安全動作」の排除「連携作業」の進め方などについて皆で確認し、皆で守ることに努めました。これは今まで、ややもすると班長の指示・連絡という形式的なTBMであったので大きな進歩と思っています。

## 3 防蜂網の着用

近年蜂災害が全国的に重視され、私たちの職場でも夏から秋の下刈、除伐、地拵の作業では蜂対策に大変苦労しています。

班の仲間にも「蜂アレルギー」の人がいることから、蜂の姿を見たり、蜂のいそうな場所などの作業にあたっては、皆で危険予知対策を行っています。

今までは、蜂よけの網は「息苦しい」または「見えにくい」など使い慣れていないこともあって、なかなか馴染めなかったものですが、網の目を粗くする、黒い色のものを採用する、肩まで覆うなど、他の職場の仲間からの意見も聞き、自分たちが気軽に使えるものとして今では全員が着用できるようになりました。

## 4 安全は、仲間の和と家族の協力で

私たちの職場では、仲間の和と家族の協力が安全確保のポイントであると受けとめています。

まず安全に関することは誰でも、どんな事でも遠慮しないよう、考え方や、意見を出し合い、同僚の不安全な動作、行動に気付いたら厳しくチェックし、お互いに注意しあえる明るい職場作

りにも皆が協力しています。

一年を通じ、晴れる日も曇る日もあるように、職場にも家庭にも悩みや、動揺があるのは事実です。

通勤バスに乗車した時の「おはよう」に始まり、下車時の「御苦労さん」「おやすみなさい」の挨拶まで、力強く声をかけあうことで、安全で明るい職場作りをそれぞれが協力して取り組んできました。

### 3. ま と め

以上、私たちは災害の無い明るい職場作りに取り組んで、その内容は特に危険予知と蜂対策について、徹底して皆んなのものにするよう家族の協力を含めて取り組んできたものです。どこの職場でも既に実行していることで、特に取り立てる内容のものはありませんが、安全には速効薬がないので、ただ地道に且つ根気よく、仲間の一人ひとりが自発的に発言し、安全な作業の進め方や注意しなければならないこと等、皆で決めたことは必ず守り実践することが大事だと思います。

こうした安全活動に積極的に取り組み、自分の安全は自分で守り、そうして効率的な造林作業推進に努めてきました。

今では、班の雰囲気も良くなり何事も気がねなく会話ができる、楽しい職場になりました。これからも、班全員で無災害の記録を続けつつ、山造りのため頑張っていきたいと思います。